

## 【11月の気象】

風の冷たさを感じる季節となりました。11月は、秋から冬への季節の変わり目で、天気が周期的に変化する時期です。西高東低の冬型の気圧配置になると、大陸から寒気が流れ込み、北西の季節風が吹きます。移動性高気圧に覆われると、朝晩は冷え込みますが、日中は風も弱く、暖かく穏やかな晴天（小春日和）になることもあります。体調を崩しやすい季節ですので、健康管理には留意が必要です。

松山地方気象台では冬の季節現象を観測していますが、早い年では11月後半に、初冠雪、初霜、初雪や初氷を観測しています。

[松山地方気象台における冬の季節現象はこちら](#)

<https://www.data.jma.go.jp/matsuyama/kansoku/kisetsu.html>

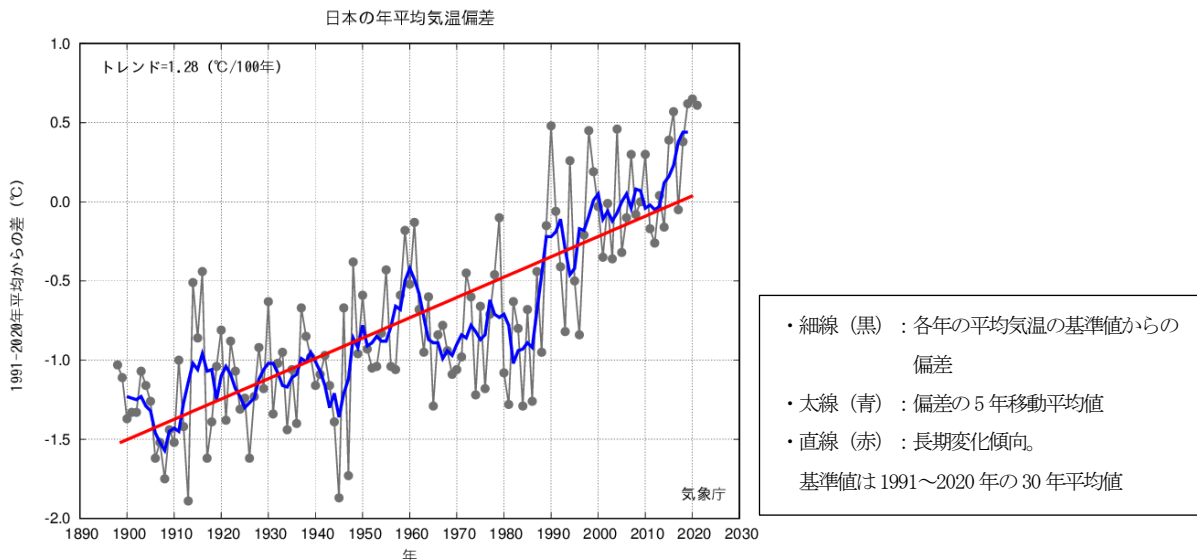
また、10月に続き、11月も降ひょうによる農作物への被害が過去に発生しています。2006年11月11日の未明、瀬戸内海付近に南下した前線に向かって南から温かく湿った空気が流入し、大気の状態が不安定となり、中予や東予で、柿、柑橘類、キウイフルーツなど被害がありました。

## 【気象用語】「日本の年平均気温」

2021年の日本の平均気温の基準値（1991～2020年の30年平均値）からの偏差は+0.61℃で、1898年の統計開始以降、3番目に高い値となりました。日本の年平均気温は、様々な変動を繰り返しながら上昇しており、長期的には100年あたり1.28℃の割合で上昇しています。特に1990年代以降、高温となる年が頻出しています。

<正偏差が大きかった年（1～5位）>

1位：2020年（+0.65℃）、2位：2019年（+0.62℃）、3位：2021年（+0.61℃）、  
4位：2016年（+0.58℃）、5位：1990年（+0.48℃）



日本の年平均気温偏差 [https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/temp/an\\_jpn.html](https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/temp/an_jpn.html)

※日本の年平均気温偏差については、全国の地上気象観測地点の中から、観測データの均質性が長期間確保でき、かつ都市化等による環境の変化が比較的小さい地点から、地域的に偏りなく分布するように選出した15地点（網走、根室、寿都、山形、石巻、伏木、飯田、銚子、境、浜田、彦根、多度津、宮崎、名瀬、石垣島）の観測データを用いています。